



TITLE:

表紙・原稿作成要領・編集後記・
裏表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・原稿作成要領・編集後記・裏表紙ほか. 物性研究 1995, 64(1):
108-109

ISSUE DATE:

1995-04-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/95529>

RIGHT:

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可
平成7年4月20日発行(毎月1回20日発行)
物 性 研 究 第64巻 第1号

ISSN 0525-2997

vol.64 no.1

物性研究

1995 / 4

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、特別寄稿、研究に関連した諸問題についての意見などです。
2. 本誌に投稿された論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集委員会で本誌への掲載が不相当と判断された場合には、改訂を求めること、または掲載をお断りすることがあります。
3. 本誌の論文を欧文の論文中で引用される時には、Bussei Kenkyu (Kyoto) **63** (1994), 1. のように引用して下さい。

原稿作成要領

1. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
2. 別刷ご希望の方は、投稿の際に50部以上10部単位で、必要部数、別刷送付先、請求先を明記の上、お申し込み下さい。
3. **ワープロ原稿の場合**

ワープロ原稿を歓迎します。原則として写真製版でそのまま印刷されますので、以下の点に注意して原稿を作成して下さい。（特に希望される場合には、こちらでタイプし直すことも可能ですが、経費の節約のため、できるだけ写真製版できる原稿をお願いします。）

 - 1) 用紙はB5またはA4を縦に使用。（印刷はB5になります。）
 - 2) マージンは、上下あわせて約4.5cm、左右あわせて約4cm。
 - 3) 1ページに本文34行、1行に全角文字で42字。
 - 4) 第1ページは、タイトルはセンタリング、所属・氏名は右寄せにして、余白を十分にとって下さい。
 - 5) 図や表は、本文中の該当箇所に貼り込み、図の下にキャプションを付けて下さい。
 - 6) 体裁については、上記は一応の目安ですので、多少の違いがあってもかまいません。
4. **手書き原稿の場合**
 - 1) 原稿は400字詰原稿用紙に丁寧に書いて下さい。
 - 2) 数式は大きく明瞭に書き、1行におさまらない場合の改行箇所を赤で指定して下さい。
 - 3) 数式、記号の書き方は、Progress, Journal の投稿規定に準じ、立体（ \square ）、イタリック（*—*）、ゴシック（**—**）、ギリシャ文字（ γ ）、花文字、大文字、小文字などを赤で指定して下さい。本誌は立体を基本としてタイプされますので、式にも必ず、イタリック、立体を指示して下さい。また、著者校正はありませんので、特に区別しにくい文字や記号なども赤で指定して下さい。
 - 4) 図は写真製版できるもの（こちらではトレースはいたしません。）を図の説明と共に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。

編集後記

私達の生命社会には、絶対的価値といえるものは何もない。この革命的な概念を100年以上も前に、明確に打ち立てた偉人がある。チャールズ・ダーウィンである。彼は「種の起源」の中で、人類を含めた全ての種は絶対不変ではないことを主張した。もちろん、彼の主張は、多くの人々の反感をかったことはいうまでもない。そして、今なお反対を唱える人達が後を絶たない。ところが、皮肉にも、このような状況が今なお続いていることこそ、ダーウィンの主張の正しさを物語っていると言えないだろうか。

絶対的価値の否定のもとでは、もはや客観性を追求することはできない。すべての事象は、私達観測者の主観に委ねられてしまうからである。客観性重視のこれまでの科学的方法では、生命をはじめとする複雑なシステムを、捉えきれない原因がここにある。絶対的価値の否定は、また、さまざまなイデオロギーの対立が—どのような時代であれ、あるいはどのような世代であれ—存在し続けることを意味している。昨今、“いじめ”をはじめとする、“さまざまな”社会問題”が、ますます深刻さを増してきている。その根源も、このあたりにあるのではないだろうか。

(あした天気になあれ)

[物性研究]

発行人	村瀬 雅俊	(京大・基研)
編集長	村瀬 雅俊	(京大・基研)
編集委員	池田 隆介	(京大・理・物理)
	小嶋 泉	(京大・数研)
	川上 則雄	(京大・基研)
	武末 真二	(京大・総合人間)
	水口 毅	(京大・理・物理)
	八尾 誠	(京大・理・物理)
	山田 耕作	(京大・理・物理)
	吉村 一良	(京大・理・化学)
各地編集委員	津田 一郎	(北大・理・数学)
	早川 尚男	(東北大・理・物理)
	河野 浩	(東大・理・物理)
	金子 邦彦	(東大・教養・基礎科第一)
	初貝 安弘	(東大・工・物理工学)
	田崎 晴明	(学習院大・理・物理)
	平田 隆幸	(筑波大・物理工学系)
	山田 鏑二	(信州大・理・物理)
	大野 義章	(名大・理・物理)
	池田 研介	(立命館大・理工・物理)
	宮下 精二	(阪大・理・宇宙地球)
	末崎 幸生	(佐賀医科大・物理)
	小田垣 孝	(九大・理・物理)
	松田 博嗣	(九大・名誉教授)

(1995年4月現在)

物 性 研 究 第64巻第1号 (平成7年4月号) 1995年4月20日発行

発行人	村瀬 雅俊	〒606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭和堂印刷所	〒606	京都市百万遍交叉点上ル東側 TEL(075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
年額	19,200円		

[物性研究]

発行人	村瀬 雅俊	(京大・基研)
編集長	村瀬 雅俊	(京大・基研)
編集委員	池田 隆介	(京大・理・物理)
	小嶋 泉	(京大・数研)
	川上 則雄	(京大・基研)
	武末 真二	(京大・総合人間)
	水口 毅	(京大・理・物理)
	八尾 誠	(京大・理・物理)
	山田 耕作	(京大・理・物理)
	吉村 一良	(京大・理・化学)
各地編集委員	津田 一郎	(北大・理・数学)
	早川 尚男	(東北大・理・物理)
	河野 浩	(東大・理・物理)
	金子 邦彦	(東大・教養・基礎科第一)
	初貝 安弘	(東大・工・物理工学)
	田崎 晴明	(学習院大・理・物理)
	平田 隆幸	(筑波大・物理工学系)
	山田 鏑二	(信州大・理・物理)
	大野 義章	(名大・理・物理)
	池田 研介	(立命館大・理工・物理)
	宮下 精二	(阪大・理・宇宙地球)
	末崎 幸生	(佐賀医科大・物理)
	小田垣 孝	(九大・理・物理)
	松田 博嗣	(九大・名誉教授)

(1995年4月現在)

物 性 研 究 第64巻第1号 (平成7年4月号) 1995年4月20日発行

発行人	村 瀬 雅 俊	〒606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所	〒606	京都市百万辺交叉点上ル東側 TEL(075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
年額	19,200円		

会員規定

個人会員

1. 会 費：

当会の会費は前納制になっています。したがって、3月末までに次年度分の会費をお支払い下さい。

年会費	1st Volume (4月号～9月号)	4,800円
	2nd Volume (10月号～3月号)	4,800円
		計 9,600円

お支払いは、郵便振替でお願いします。当会専用の振替用紙がありますので、下記までご請求下さい。郵便局の用紙でも結構です。通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。

郵便振替口座 **京都 01010-6-5312**

2. 送本中止の場合：

送本の中止は Volume の切れ目しかできません。次の Volume より送本中止を希望される場合、できるだけ早めに「退会届」を送付して下さい。中止の連絡のない限り、送本は継続されますのでご注意下さい。

3. 送本先変更の場合：

住所、勤務先の変更などにより、送本先が変わる場合は、必ず送本先変更届を送付して下さい。

4. 会費滞納の場合：

正当な理由なく 2 Volumes 以上の会費を滞納された場合は、送本を停止することがありますので、ご留意下さい。

機関会員

1. 会 費：

学校、研究所等の入会、及び個人でも公費払いのときは機関会員とみなし、**年会費 19,200円** (1 Volume 9,600円) です。学校、研究所の会費の支払いは、後払いでも結構です。申し込み時に、支払いに書類（請求、見積、納品書）が各何通必要かをお知らせ下さい。当会の請求書類で支払いができない場合は、貴校、貴研究所の請求書類をご送付下さい。

2. 送本中止の場合：

送本の中止は Volume の切れ目しかできません。次の Volume より送本中止を希望される場合、できるだけ早めにご連絡下さい。中止の連絡のない限り、送本は継続されますのでご注意下さい。

雑誌未着の場合：発行日より 6 ヶ月以内に当会までご連絡下さい。

物性研究刊行会

〒606-01 京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
電話 (075)722-3540, 753-7051
FAX (075)722-6339

物 性 研 究 64-1 (4月号) 目 次

○講義ノート

- 『流体系の分子シミュレーション「への道」」……………中西 浩一郎………… 1

○分子場RVB理論に現れるスピノンとホロンの局在と閉じ込め

- ……………大川 房義………… 16

○管楽器吹鳴の非線形現象とその解釈をめぐって

- ……………高橋 公也、池田 研介………… 26

○研究会報告

「生命現象のパラドックス：

- 自己組織過程と自己崩壊過程の接点を探る」…………… 89

- 「生命社会における“完全なる不完全性原理”の探究」…………… 94

○修士論文 (1994年度)

- Si-MOS二次元電子系の $\nu < 1$ 領域の局在現象 ……………篠原 克徳………… 99

○ひろば

- スイカと人間 —'95年1月号編集後記に対する補足— ……………K. Y.………… 107

○編集後記…………… 108

物 性 研 究 64-1 (4月号) 目 次

○講義ノート

- 『流体系の分子シミュレーション「への道」」……………中西 浩一郎………… 1

○分子場RVB理論に現れるスピノンとホロンの局在と閉じ込め

- ……………大川 房義………… 16

○管楽器吹鳴の非線形現象とその解釈をめぐって

- ……………高橋 公也、池田 研介………… 26

○研究会報告

「生命現象のパラドックス：

- 自己組織過程と自己崩壊過程の接点を探る」…………… 89

- 「生命社会における“完全なる不完全性原理”の探究」…………… 94

○修士論文 (1994年度)

- Si-MOS二次元電子系の $\nu < 1$ 領域の局在現象 ……………篠原 克徳………… 99

○ひろば

- スイカと人間 —'95年1月号編集後記に対する補足— ……………K. Y.………… 107

○編集後記…………… 108